「三股プライド」～心と形を整える～

令和５年９月１５日(金)　ＮＯ１３　文責　木下（きした）　文秋（ふみあき）

人はなぜ働くのか

日曜日に「虹色のチョーク」というドラマを見ました。このドラマは障害のある方を雇用している神奈川県の日本理化学工業という会社の実話です。この会社は学校で使用するチョークを生産しており、その生産量は全国トップクラスです。ドラマとはやや異なりますが、ことの始まりは、会社の近くにある特別支援学校の校長先生が「お宅の会社で一人でもいいからうちの生徒を雇ってもらえませんか。一日だけでもいいから働くことを経験させてください」とお願いされたことによります。女子生徒に２週間仕事をさせたところ、彼女達の一生懸命さに心を打たれた社員から「是非彼女達を雇ってほしい」と申し出がありました。そこで、２名を社員として採用したのですが、時々ミスをしてしまい、トラブルの連続だったそうです。それでも彼女達は遅刻もせず、毎日一生懸命仕事をする。ミスをして帰りなさいと言うと泣いて嫌がる。その姿を見て社長さんはこのように社員に話をします。「人間には４つの幸せがあると思う。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと。人に必要とされること。その幸せは施設では得られない。だから彼女達は頑張るのでしょう。」この会社は今では全８０名の社員のうち７割を超える人が障がいのある人です。どうしてもミスは起きるのですが、そこで働く障がいのある方々は、人に必要とされる喜びや、人の役に立つ充足感に満たされているからこそ、今日も仕事ができているのだと考えます。「働くこととは？」と質問すると恐らく私を含め、多くの人間は「お金を稼ぐこと」と答えると思います。しかし、自分という存在が人の役に立ち、人から喜ばれたり、必要とされたりするならば、心が満たされるに違いありません。また、自分自身にとって損か得かの感情だけで判断するのではなく、自分の行動が、弱者や助けを求めている人にとって愛され、喜ばれることだとしたら、こんなに素晴らしいこともありません。私がこのドラマで感動したことは２つあります。ひとつは当然、障がいのある方の頑張りと誠実さです。もうひとつは、障がいのある方を受け入れて、理解しようとする周りの人たちの差別とは無縁の心です。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと。人に必要とされること。この４つの幸せを感じることができれば、気持ちよく仕事ができることを夏の終わりに改めて教えてもらいました。